

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

<b>日時</b>	令和 5 年 12 月 4 日（月） 13 時 30 分～16 時 00 分		
<b>場所</b>	宜野湾市役所 2 階 庁議室		
<b>議事骨子</b>	1. 開会 2. 委嘱状交付式、委員挨拶 3. 市長挨拶 4. 議事 (1) 会長及び副会長の選任 (2) 総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要 (3) 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証 5. 報告事項 (1) 第四次宜野湾市総合計画等の評価・検証の基本的な考え方 6. 事務連絡 7. 閉会		
<b>会議資料</b>	資料 1：総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要等 資料 2：宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和 4 年度の実績(報告用) 資料 3：第四次宜野湾市総合計画等の評価・検証の基本的な考え方 参考資料 1：宜野湾市振興計画審議会規則 参考資料 2：宜野湾市振興計画審議会委員名簿 参考資料 3：市民アンケート調査票 参考資料 4：各課ヒアリングの調査シート		
<b>委員出席者 (敬称略)</b>	<b>所属</b>	<b>氏名</b>	
	出席	琉球大学国際地域創造学部 教授（経済学）	瀬口 浩一
	出席	沖縄国際大学総合文化学部 人間福祉学科 教授	岩田 直子
	出席	琉球大学 グローバル教育支援機構 保健管 理部門教授	崎間 敦
	-	琉球大学 工学部 工学科 社会基盤デザインコース 准教授	神谷 大介
	出席	宜野湾市商工会理事	吉田 英子
	出席	宜野湾市観光振興協会会長	高里 健作
	出席	宜野湾市認可保育園長会会長	仲村 由香
	出席	宜野湾市自治会長会選任 大謝名区自治会 長	眞志喜 初枝
	出席	宜野湾市社会福祉協議会副会長	宮城 悦子
	出席	一般公募枠	坂田 安佐子
	出席	宜野湾市教育委員	大川 実
	出席	特定医療法人 アガペ会 理事長	涌波 淳子
	-	アイパブリッシング株式会社 代表取締役	福島 健一郎
	出席	沖縄振興開発金融公庫	上江洲 博
	出席	日本労働組合総連合会沖縄県連合会連合 沖縄中部地域協議会 議長	宇根 信明
出席	FM ぎのわん 代表取締役	山内 一郎	
-	うむやす法律会計事務所 弁護士	野崎 聖子	
出席	宜野湾市企画部長	坂場 純平	
<b>事務局</b>	<b>【宜野湾市企画部企画政策課】</b> 伊佐次長、小橋川主幹、具志堅主査、 藤原主査、平良技査  <b>【日本工営都市空間】</b> 盛田、前田、大城		

# 第 1 回 宜野湾市振興計画審議会 議事録

## 1. 開会

## 2. 委嘱状交付式、委員挨拶

- ・松川市長より、代表して瀬口浩一委員と坂田安佐子委員の 2 名に委嘱状を交付。その他の委員は机上交付。
- ・委嘱状交付後、各委員より一言挨拶。

## 3. 市長挨拶

- ・松川市長より挨拶。挨拶後、松川市長は公務のため退席。

## 4. 議事

- ・議事に入るにあたって、委員 18 名中 15 名の出席により、会議の成立を確認。

### ■議事概要

#### (1) 会長及び副会長の選任

- ・会長・副会長は事務局提案となり、会長は瀬口浩一委員、副会長は岩田直子委員を選出。

#### (2) 総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要・・・資料 1

発言者	内容
委員	健康で安心して住み続けられるまちの実現を目指し、デジタル技術を活用した施策を推進すると思われる。デジタル技術の活用については国全体で遅れが見られる中、具体的にどのようなアプローチを考えているか。デジタル技術の活用にあたっては、楽しいと思える工夫の必要性を感じており、市で予定する取り組みについて伺う。
事務局	宜野湾市では、健康増進課と琉球大学が連携し、沖縄健康医療拠点まちづくり事業として、健康づくりに関する実証実験を実施中である。デジタル技術に関する具体の事業は未実施だが、健康アプリの開発に向けて検討している。アプリを用いて、地域や自治体、幅広い市民へアプローチし、健康づくりに寄与することを狙った取り組みである。
委員	行政と大学の連携だと、市民にとっては魅力的でない可能性もある。ノウハウを有する企業を巻き込むなど、広く連携することは考えているか。
委員	健康アプリも琉球大学だけでなく IT 企業とも連携し検討している。具体には、健康分野に関心を持ってもらえるよう、食育に関する動画の配信、健康講座への参加促進のほか、心拍数等の健康データの取得・活用等を健康アプリで展開することで、デジタル技術も活用した、市民の健康づくりのモデル形成を目指している。
委員	まち・ひと・しごと創生総合戦略において「雇用」「交流」「結婚・出産・子育て」「地域づくり」の観点の施策により、人口増や地域活性化等の地方創生が進むことは良いが、一方で地価の上昇や格差の拡大等も懸念される。対策は考えているか。
事務局	まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口ビジョンで示した 2060 年の目標を実現するための計画である。急激な人口増等による弊害が発生しないよう対策を講じながら進める長期的な計画である。
委員	母子手帳アプリや健康管理アプリはすでに展開されているが、どの程度利用されているのか。

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

発言者	内容
委員	利用状況について具体的な数値を把握できていないが、健康管理アプリを用いて実施した歩数を競うウォーキングのイベントには、約 500 人が参加した。アプリそのものができて間もなく、市民の認知度は低い状況である。
委員	マイナンバーカードの交付率はどうか。
委員	約 60%である。申請して未だ受け取っていない人を含めると約 70%である。
委員	デジタルに不慣れな人への対応も必要になるのでは。子供や孫に聞かないと分からないことが多い。
委員	特に高齢者や障がい者に対して、使えると便利な技術であることを理解してもらうための取り組みが必要と考えている。 現在は、総務省の補助事業を活用したスマホ教室の開催や、文字拡大機能・読み上げ機能の追加による HP の利便性向上等に取り組んでいる。また、長田地区、普天間 3 区においては、大学生も交えてワークショップ形式による使い方講座を実施したところである。今後も、暮らしがより便利になるような施策の展開を目指したい。 また、分からないことを逆手にとって親子間の交流を深めることも考えられる。
委員	今後 10 年間で後期高齢者は急激に増加し、現在の 1.6 倍になる。若い世代だけでなく、高齢者も含んだ計画とすることが重要。
事務局	高齢者については、市の最上位計画である総合計画の位置付けを基に施策を展開する予定である。
委員	現在、生産年齢人口は 15～64 歳と区分されているが、将来的には 70 歳まで拡大することも考えられるため、まち・ひと・しごとや健康づくりの分野において意識しておくが良い。

(3) 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証・・・資料 2

発言者	内容
会長	評価・検証に関する議事にあたって、本会議ではどのような議論が求められるのか。
事務局	頂いた意見は、庁内検討委員会等で展開し、総合計画への反映方法等について検討予定である。KPI 達成度の見直しは難しいが、担当課の進捗評価について、意見を踏まえた見直しを想定しているため、それぞれの立場から意見をいただきたい。
委員	総合計画は、宜野湾市の羅針盤であるため、具体の事業に対する意見は個別計画で反映される。意見は各課へ共有するため、忌憚ない意見をいただきたい。
会長	外部の視点からの意見は重要であるため、ぜひ意見をいただきたい。

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

発言者	内容
基本目標①について	
委員	インキュベーションオフィスについて詳細を伺いたい。入居は原則 5 年となっているが、退居後は自らオフィスを見つける必要があるのか。
事務局	宇地泊地区に宜野湾ベイサイド情報センターを整備しており、創業支援や IT 企業の入居を行っている。 入居 5 年が経過した事業者については、事業の成長や規模の拡大に合わせて、市内の空きオフィス等に転居することが望ましいが、市内にオフィスビルが少ないこともあり、施設退居後は他市町へ転出していることが課題である。
委員	入居は IT 企業に限定しているのか。また、25 社も利用しているのか。
事務局	宜野湾ベイサイド情報センターは、IT 企業を対象とした施設である。利用数は、簡易的に区切られたスペースであるインキュベーションスペースを利用する一人会社を含んでいる。企業が入居できるオフィス空間には 10 社が入居している。
委員	宜野湾市の産業育成については、どのように考えているか。
事務局	沖縄振興特別措置法に基づく税制優遇措置を活用した企業誘致を進めているが、市独自の支援策については展開できていない。
委員	産業育成や雇用の創出についてはデジタル技術の活用とも繋がる。おそらく全産業を対象とした支援は難しいため、ターゲットを決めて取り組んではどうか。
事務局	別途、産業振興計画の策定を進めているため、頂いた意見を担当課に共有し、改めて報告する。
委員	中国への留学生派遣制度について、これまで延べ 18 名を派遣しているが、派遣した学生のうち何名が宜野湾市に残って貢献しているか把握できているか。宜野湾市には活躍の場が無いと感じている。
事務局	把握できていない。活躍の場が無いことは課題と認識しており担当課にて、今後検討していく。
委員	中国への派遣については、新型コロナウイルスの影響だけでなく随行者のビザに関する問題もあるため、現状については改めて報告する。
委員	デジタル技術の活用は、効率化等に寄与する一方で、人員削減等により雇用の減少に繋がる可能性もある。中小企業等の負担軽減、新たな取り組み支援やワークライフバランスの実現など、ポジティブな発想で取り組むことが人口増加に繋がる。
事務局	宜野湾市においても職員の確保が難しい状況にある。デジタル技術を活用して負担軽減・効率化を図り、職員がすべき業務にシフトすることで、ワークライフバランスの実現にも寄与したい。
委員	雇用面では、保育士や介護福祉士不足の問題がある。県外では、人材確保のために、居住費の一部を負担している事例もある。宜野湾市は、人材確保のための施策についてどのように考えているか。総合戦略に「保育士・介護福祉士の確保」の位置づけが無く気になる。
事務局	国においても介護福祉士の報酬改定を行うなど、国全体の問題となっている。宜野湾市では、総合計画に紐づいた分野別計画を策定しており、分野別計画に基づき保育士の育成事業に取り組んでいる。

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

発言者	内容
基本目標②について	
委員	着工が遅れている屋外劇場の工事について、いつ完了予定か。
委員	入札不調が続いており、当初予定していた令和 6 年度以降になる見込みである。
委員	入札不調の要因は何か。
委員	資材高騰や人件費高騰により行政の予定価格に収まっていないことが大きいようである。
委員	イベント開催の相談が増えている一方で、全て受け入れることは難しいと評価しているのはなぜか。
事務局	組織的な課題があり、イベントが重なると受け入れが厳しい状況である。
委員	提案として、屋外劇場のほか市民球場のモニターを活用した取り組みができないか。
事務局	次期計画に向けて、いただいた意見を担当課と共有する。
基本目標③について	
委員	子供・子育て分野については、毎年同じような課題が挙がっており進展が無いように感じている。取り組みが進んでいない要因、ボトルネックを明らかにし、対応すべきである。制度の問題や人材不足等、様々な要素が絡む分野であるため、審議会でも議論する必要がある。職員や施設管理者の声を把握しながら、対策を検討していただきたい。
事務局	現在、市民アンケートの分析を進めており、今後は市民ワークショップも予定している。頂いた意見も踏まえて、どのような対策をすべきか検討する。
委員	昨今、専業主婦でも子育てに十分手が回らない状況があり、児童虐待や鬱にも繋がる可能性がある。県外では、専業主婦でも子どもを預けることが可能で、リフレッシュできるようだが、宜野湾市はどうか。
委員	認定こども園では受け入れが可能であるが、保育園での受け入れはできない。宜野湾市では 3 歳児の受け入れ環境が整っておらず、他市町へ転出する世帯も多いことが課題。課題の解決に向けて現在、認定こども園への移行について検討している。
委員	宜野湾市内に幼稚園は 10 園あるが、利用率が低く認定こども園に移行する計画を検討している。給食調理場の設置の都合上、3 歳以上の受け入れ環境は整う見込みである。一方で、保育士不足の解消には寄与するものではなく、別途対策を講じる必要がある。
委員	ヤングケアラーに関する取り組みについて、市の考えを伺いたい。たとえば「みらいチケット」の配布等の検討はしているか。
事務局	ヤングケアラーについては、福祉・教育の両分野の大きな課題と認識している。次期計画に向けて、頂いた意見を担当課と共有する。
委員	ファミリーサポートの利用を希望する市民も多いが、どのような状況か。
事務局	子育て援助を行う「まかせて会員」が不足している。R6 年度以降は、事業運営を民間事業者に委託する予定であり、民間活力を活かした「まかせて会員」の増加を期待している。

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

発言者	内容
委員	医療的ケア児については法律に基づき委員会を設置する必要があるが、進捗が良くないため、進捗評価について改めて検証が必要。職員一人ひとりの頑張りは承知しているため、市として多忙な部署を応援する体制づくりはできないか。
委員	病休等により欠員が発生したことにより、目の前の仕事を捌くことに注力している状況である。本来あるべき姿として、プロジェクト推進に関する部署を設け、事業推進や定員増加等を検討する。
委員	医療的ケア児については、医療機関が担うべき事項もあるため、行政でできることに着目した評価が必要。
委員	数値目標の達成度評価は 3 でほぼ計画通りとある。一方で施策の進捗状況は C が 2 項目あり、医療的ケア児に関する取り組みも進捗が良くないとのことで、達成度評価と施策の進捗評価が乖離している。
事務局	設定された KPI は客観的評価のため変更不可であるが、進捗評価について、頂いた意見を共有し、評価について改めて確認する。
委員	こども貧困対策についても評価 A でよいか確認が必要。
会長	施策の進捗評価については、最終年度ではなく R4 年度時点の評価であることに留意した上で、再度事務局で確認すること。
<b>基本目標④について</b>	
委員	R6 数値目標、健康寿命と平均寿命の値は、宜野湾市の実績値か。
事務局	宜野湾市の実績値である。
委員	健康分野に関する基本的方向については、現行計画である健康日本 21（第二次）で示す方向性とは異なる。一方で、R6 年度から適用する健康日本 21（第三次）で示す「自然と健康になれる」の方向性とは合致していることから、健康日本 21（第三次）との整合を図った計画という理解でよいか。
委員	策定時には健康日本 21（第三次）との整合を図っていないと思われる。宜野湾市として「いつの間にか健康になっている」を掲げたことが、偶然合致した。
事務局	健康寿命の延伸に係る数値は、5 年に 1 度公表されるものであるため、値の公表と評価・検証の時期にズレが生じており、評価指標として適切であったか疑問に感じている。次期計画では、施策に対して適切な評価を図ることできる指標を設定することが必要と考えている。
委員	食糧の備蓄について、担当課の評価を見ると「今後も継続的な備蓄が必要」として、進捗評価は C であるが、KPI 達成度は 4 である。
事務局	計画策定時に定めた目標値を達成したため、KPI 達成度を 4 としている。一方、進捗評価については、令和 4 年度末に想定避難者数を大幅に見直し必要な備蓄数が増えたことを踏まえた評価となる。
委員	在宅酸素を使う方の備蓄が課題となった。次期計画においては福祉避難の観点から踏まえた位置づけを検討していただきたい。

**第 1 回 宜野湾市振興計画審議会  
議事録**

発言者	内容
横断的目標①、横断的目標②について	
委員	横断的目標①「多様な人材の活躍を推進する」のうち、地域づくり事業について、事業に参加した市民の満足度は高くても、接点が無い市民にとっては事業の存在自体知られていない可能性がある。 地域づくり推進事業基金助成基金の審査員を努めているが、他市町村に比べて応募者が少ない。関心を持っている市民もいると思うが応募に繋がっていない。活動内容の周知など、取り組みが見える工夫が必要。また、地域リーダー等養成講座について、講座を修了した市民の活躍の場が必要である。宜野湾市は中間支援組織がないため、情報提供や市民のマッチング等の観点で取り組むことが重要となる。
事務局	次期計画に向けて、頂いた意見を担当課と共有する。
その他	
委員	DV に関するデータについて、R3 から R4 にかけて児童家庭課への相談が 100 件ほど増加している。対応状況や増加の要因等について把握しているか。
事務局	要因等は把握できていないが、社会福祉士と連携して取り組んでおり、急激な増加への対応に苦勞したと伺っている。児童家庭課にも共有し、対策を検討する。
委員	医療分野では、医療従事者の針刺し事故が報告事項になったことで、件数が増加したが、これまで未報告であった件数分が増加したものである。DV についても、相談しやすい環境づくりによって相談窓口の認知が増えた結果も想定されるため、確認が必要。

5. 報告事項

(1) 第四次宜野湾市総合計画等の評価・検証の基本的な考え方

発言者	内容
委員一同	意見無し

6. 事務連絡

発言者	内容
会長	本会議の議事要旨は、事務局でとりまとめ後、委員の名前を伏せた状態で公表予定である。内容の確認は、会長へ一任でよいか。
委員一同	異議なし。

7. 閉会